インターンシップ　ロビーイングに同行

法政大学　法学部国際政治学科
東アジア国際政治コース専攻　坂口 弦

突撃電話をしてインターン生になる

はじめまして。８月一日からインターンシップ生の坂口弦（ゆづる）と申します。長野から上京し、現在は都内で一人暮らしをしております。

「何とかしなければ・・・」正義感に突き動かされ、朝鮮半島の勉強を始めたのは高校２年の夏でした。テレビで北朝鮮の独占映像なるものを見て愕然としたことは今でも鮮やかであり、その正義感は今なお胸中にあります。大学では、ヘンリー・キッシンジャーなど、とりわけ外交、安全保障などを勉強しましたが、実践的な事もせず惰性の毎日でした。そこへ今年、授業の一環としてインターンがあり、募集していない当基金に突撃電話をしてOKを頂きました。

好奇心半分、偏見もあったが・・・
ICNKのロビー活動に参加

初日に活動内容は聞いており、ロビーイングと伺った瞬間、好奇心半分、どこか政治色が強い活動といった偏見がありました。ロビーイングは、国連に於ける“Commission of Inquiry”の採択をICNK（北朝鮮における「人道に対する罪」を止める国際NGO連合）の一員として請願して参りました。８月６日、自民党の古屋圭司衆議院議員のもとへ伺いました。北朝鮮問題に関して明るい同氏からは、Commission of Inquiryをマニフェストや国会で取り挙げたいという趣旨を聞き、この活動の実効性や意義を体感し、ロビーイングの力に驚きました。

８月２２日は、外務省総合外交政策局局長（現：外務審議官）鶴岡公二氏と、かねてから尊敬して止まない自民党政調会長（現：幹事長）の石破茂氏のもとを訪れました。現役官僚である鶴岡氏は気さくな方で、予定の時間を過ぎてまでお話頂けました。「ICNKの活動は本来、日本政府がすべき」と語ったのが大変印象的でした。石破氏からは、「北朝鮮問題の責任の帰結はどこか」「同問題無くして自らの防衛関連の仕事無し」と縷々（るる）、人権や安保に対する大局的な話に、奮い立たされました。名刺交換の際、手が震える程に欣快の至りでした。　（編集部注：表紙写真を参照）

他にも仏大使館の一等書記官を訪れるなど貴重な体験をさせて頂き、嘗てのロビーイングのイメージは大きく覆され、必要不可欠な実りある活動だと認識させられました。

グローバルフェスタで考えた
一人でも多く救いたい

８月でインターン期間は終了でしたが、私の続けたいというわがままと、理事長からのもし良かったら、という言葉に甘え最近では、日比谷公園で開催されたグローバルフェスタにスタッフとして参加しました。当日は私の予想以上の人出で、若者が大勢いる事に驚きました。若者の力は大きいと感じつつ、私もチヂミの販売や北朝鮮展示のブースを担当致しました。北朝鮮に興味を持つ方、嫌悪感を示される方、様々でしたが私を含め、同国に対する正しい認識、難民に対する考えをどう広めていくか考えさせられました。

大学では外交や内政、安全保障など政治学的観点から北朝鮮という国を見てきましたが、人権問題として同国を見たとき、それは普遍的問題から根源的な問題に突き当たることを知りました。

お会いした脱北者家族も、笑顔がとても印象的でした。ウェブなどで一概に北朝鮮への批判を頻繁に見かけますが、人権問題は思想信条問わず人類共通の問題であり、核問題などに比べ極めて中核的な問題だと考えます。風当たりの強い問題だけに、当基金は先駆的なNGOだと感じました。将来、一人でも多くの人を救う為にも、今自分に何が必要か、何をすべきかを考え、生活していこうと思いました。

理事長はじめ、ICNKなど数多くのお世話になった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。